



# 若者国際連合-7

UNITED NATIONS FOR YOUTH  
～丸腰は撃たない～

mori3580

トランプ氏の大統領就任以来1か月経過した。この1か月間世界の各方面からいろいろな反応があったが、戸惑いを隠せないようである。大統領の任期は4年あり、その評価はまだ早いと思うが、なにしろ超大国のアメリカ合衆国の大統領であり、その影響力は計り知れない。世界中がじっと眺め、それぞれの国それぞれの立場からの反応があるのは止むをえないと思われる。

「米国第一」、「米国を再び偉大な国へ」というスローガンは分かっているが、具体的な政策を見なければ、それぞれの国や立場にどのような影響があるのかわからないのか分らないということで、世界中が大統領の言動を注視していた1か月であった。

この1か月の間には、北朝鮮労働党の委員長金正恩氏の異母兄金正男氏の殺害があり、殺害された現場のあるマレーシアと北朝鮮の国家関係が不穏になってきたと伝えられた。

一方、私は子供の頃食糧難を経験しており、育ち盛りに食糧がないというつらさ、みじめさを体験しているので、北朝鮮をはじめ世界の子供たちの食糧事情を心配している。私の85年の人生の中で最もつらかったのは、子供の頃の食糧難である。「子供たちの衣食住はおとなの責任」と思っているからおとなたちは戦争などやる前に、世界の子供たちがひもじい思いをしないようにすることが先決と思っている。トランプ大統領に、軍事予算の増額よりも、世界の子供たちの食糧を増やすことを提案したいと真剣に思っている。今でも世界一の軍事力を誇り、「アメリカを再び偉大な国へ」という信念がある以上、超一流のビジネスマンなら、世界の子供たちの命を救い、生涯アメリカに感謝しアメリカ製品の顧客になってもらう方が立派だと思うがどうだろうか。世界の子供たちがアメリカに感謝し、「アメリカは偉大だ」と口々にたたえるようにすることは、全人類を殺せるだけの核兵器を人類は持ってしまった以上、軍事力予算を増やすよりも意味があるように思う。

こういうことをトランプ氏に誰がいうのか、世界中の子供たちの代表「若者国際連合」以外考えられない。

まえがき

第1章 トランプ大統領は知っている

- Q：シリア等7か国からの移民入国制限の大統領令に署名したが...？
- Q：移民問題についての考えは？
- Q：トランプ氏は元大統領のレーガン氏を尊敬している...？
- Q：トランプ大統領は軍事予算を増やすと言っているが...？
- Q：「暴力はダメ」という社会常識は日本だけか？

第2章 黒塗りは不快な作業

- Q：国連のPKOに参加した自衛隊の日報が一部黒塗りされたが...？
- Q：政府は南スーダンからの撤退を検討しているが...？
- Q：現実の問題として、核開発を続ける国が脅威になっているが...？
- Q：「共謀罪」についてはどう思うか？

第3章 南北朝鮮統一の好機

- Q：北朝鮮がまたミサイルを発射したが...？
- Q：北朝鮮の子供たちは今どうしている？
- Q：韓国の大統領が罷免されたが...？
- Q：朝鮮統一による日本への影響は...？

第4章 ポピュリズムとポストトルースの時代

- Q：トランプ大統領の勝利はポピュリズムと言われたが...？
- Q：極右政党の台頭はなぜ問題なのか？
- Q：ポピュリズムと民主主義は似ているが違いはなにか？
- Q：ポストトルースと呼んだのは...？

第5章 これからの若者の生き方

- Q：これからの若者の生き方は...？
- Q：いろいろ考えなければならぬ現代の若者の生き方は...？

あとがき



## 第1章 トランプ大統領は知っている

---

Q：トランプ氏は大統領就任後すぐに「シリア等7か国からの移民の入国を禁じる」大統領令にサインしたと伝えられたが...？

A：問題はイスラム教徒の入国を拒否したということのようだ。アメリカにすでにアメリカ人として住んでいてその家族を呼ぶという事例があったと伝えられ、司法が許可したとのことである。大統領令の一時停止という司法判断に、トランプ氏がかみついて問題となったが、立法・行政・司法の三権分立が働いているという近代国家としての機能を備えていると安心する向きもあった。

トランプ大統領は、司法が大統領と反対の判断を知っていて、7か国からの入国を拒否する大統領令にサインをしたとも考えられる。大統領は選挙中の公約を果たし、三権分立が機能していることにより、民主主義の近代国家としての面目を保った。これは考えすぎかもしれないが...

移民保護はアメリカの伝統であり、移民により活力が生まれてきたともいえる。トランプ氏自身何代か前のご先祖の時代には、どこからかの移民であったかもしれない。

私は第二次世界大戦中アメリカ軍の空襲により家を焼かれた疎開難民であったが、シリア難民も同じ経験をしていると思っている。80年経っても人間は変わらないところがある。

人間は好奇心の塊である。我々のご先祖様は未知の世界への好奇心により勇気をもって地球上を自由に行き来したものと言われている。私は「移民問題」は若者の判断に任せるのが良いと思っている。

Q：あなた自身は移民問題についてどう考えているのか？

A：人間は好奇心の塊であり、勇気をもって地球上を歩き、それぞれお気に入りのところへ定着したのだと思う。その頃は国境などない時代である。現代の若者たちも同様であろう。行きたいところに行き、住みたいところに住むのが人生である。これが大前提である。

私もそうだったが、空爆等により家を焼かれ学校を焼かれ、行くところがなくて住むところがなくて、止むをえず移民・難民となる事例がある。80年経ってもいまだに空爆が行われており、移民・難民が発生している。一方で、空爆により家を焼かれ学校を焼かれ止むを得ず移民・難民となった人たちがおり、それらの人々が行くところ住むとこ

ろがなく、国境を越えて生きる場所を求めているのに、移民の入国を拒否するのはいかなものだろうか？移民・難民の原因を作った方が真剣に考える事ではないのか？

私自身は移民の受け入れに賛成であるが、これも「若者国際連合」にお任せしたい。これから人口減少の時代を迎える先進国は、働き手の減少・買い手の減少にどう対処するのかという問題もある。総合的・長期的に判断しなければならない。

Q：トランプ大統領は元大統領のレーガン氏を尊敬していると伝えられているが...？

A：そう伝えられている。レーガン氏といえば、映画俳優出身として有名である。私は若いころ、当時娯楽と言えば映画しかなかった時代であるが、あちこちに「名画座」があり、よく映画を見に行ったものだ。お好みはアメリカ映画で、ハリウッド製の西部劇であった。アメリカ人の祖先は新天地を求めてきたが、西部劇の多くは原住民であるインディアンとの戦いか、白人同士の早撃ち争いであった。武器が主役の映画であったが、西部劇の底に流れていた思想は「丸腰は撃たない」であった。丸腰とは武器＝銃を持たないことである。丸腰と知らずに撃ってしまったガンマンが、移動判事の来るのをおびえていたという映画を見た記憶がある。丸腰は最も強いのである。当時のハリウッドで、どうして「丸腰は撃たない」という思想が生まれ、東洋の一学生であった私の記憶に残っているのか分からない。映画俳優出身のレーガンさんならご存知かもしれない。トランプ氏は多分レーガン氏から聞いていないと思われる。

Q:トランプ大統領が軍事予算を増やすと言っているからか...？

A：「丸腰は撃たない」という当時のハリウッドの思想をレーガン氏から聞いていれば、トランプ氏も軍事予算を大幅に増やすなどと言わないはずだから。人類を全滅できる質量の核兵器をすでに人類はもっており、使うに使えることを皆知っている。核兵器が戦争の抑止力として機能していたのは20世紀までのことである。21世紀は「丸腰は撃たない」が国際常識として定着する。トランプ大統領にはそれができると思う。「若者国際連合」が後押しすれば、21世紀のかなり早い時期に可能となる。

Q：前号で「暴力はダメ」という社会常識が定着したのは素晴らしいことと言ったが...？

A：日本では「暴力はダメ」という社会常識が定着していると思う。一億人以上の社会

=国で「暴力はダメ」という常識が定着しているのは、よその国では考えられないことだと思う。いつ頃から定着したのか、自分の体験で高度成長期のあとバブル崩壊以後あたりと思っていたが、1945年の第二次世界大戦の敗戦以後生まれた人たちが、日本全体の過半数を占めるようになってから、つまり武器を放棄させられ、兵役の義務がなくなり、平和のありがたさが身に染みる世代の人たちが、過半数を占めるようになってから、と言っても良いのではないかと思っている。その陰には「戦争の放棄」や「軍事力の放棄」をうたった憲法第9条の存在があることは間違いないこととおもわれる。

さて、世界を二分する大戦を二度も経験してきた20世紀も終わり、今や全人類を殺せるだけの核兵器を持ってしまった人類に残されている「生きる道」は「丸腰は撃たない」しかないのではないか。

## 第2章 黒塗りは不快な作業

---

Q：南スーダン国連平和維持活動（PKO）に派遣されていた自衛隊の日報が黒塗りで一部見られなくなっている写真が新聞に載っていたが...？

A：私は中学2年の夏、日本が敗戦した直後、それまで学校で習っていた教科書の一部を、先生の指導により黒塗りをした経験があるのを思い出した。この間まで授業で習っていた内容を黒塗りにすることは「それまでの否定」となり、憂鬱な作業であったことを覚えている。また新しい民主主義教育の印刷・製本が間に合わず、製本前の新聞紙大教科書の一部を、占領軍の指導により黒塗りがしたが、これも不快な作業であった。

今回の日報の黒塗りも誰かが実際にその作業をやったのだろうが、「一部を隠す」のは憂鬱な作業であつたらうと推察する。実際に現場でその日報を書いた人は、あとでその一部が黒塗りになるなど考えもしなかつたらう。もともと主権者である国民に黒塗りつまり一部を見せないなどのことはあつてはならないことである。それが民主主義である。

政府に都合の悪いことでも真実を知らせる、マスコミも政府発表だけに頼らず独自の調査により真実を国民に知らせる、国民も真実を知ったうえで自分で考え、自分の意見を持ち、それを次の投票に結びつける、こういうことで民主主義は定着するのであろう。黒塗りは二度としたくないし、見たくない。

Q：政府は5月末で南スーダンから自衛隊を引き上げると発表したが...？

A：専守防衛が憲法で許されるぎりぎりのところであろうが、海外で武力を行使する恐れがあるなど「駆けつけ警護」には疑義があつた。引き上げを決めたのは、遅きに失したとの指摘もあつた。政府・与党内でも「駆けつけ警護」の実績を上げたいという思いと、自衛隊員に戦死者が出ないうちに引き上げたいという思いとが交錯しているようだ。武力だけで解決しようという根本的な過ちに、早く気付かなければいけない場面と思う。「丸腰は撃たない」という思想を、グローバルな常識として全地球に定着させることが大切であり、その時機が来ていると思う。個人も国家も「丸腰が一番」という常識を定着させなければ、人類に未来はないというところまで来ているのである。

Q：現実の問題として、いまだに核兵器の開発・研究・実験に熱心な国があり、その脅威におびえている国もある。その地域の緊張は増すばかり...？

A：現実はどうかもしれないが、核兵器の研究にいくらお金をつぎ込んでも子供たちの日常生活はよくなる。私は80年余の人生の中で「子供たちの衣食住と基礎教育」はおとなの責任とと思っているから、膨大な軍事予算の一部でできることであり、できる範囲内で始めればよいと思っている。要は初めの一步を踏み出すキッカケをつくるのは誰かということだろう。

核兵器の開発を続ける国は、核兵器の開発と民生の向上と両立させると言っているが、私の経験では民生の向上が犠牲になることは間違いない。日本もかつて軍備拡張のために民生を犠牲にしてきた過去があり、私はそういう中で少年時代を過ごしたからよくわかっている。育ち盛りに食べ物が足りない苦悩が身に染みている。85年の私の人生の中で最も苦しかったと今でも思っている。そんなことが長く続くわけがない、大人たちの責任において解決しなければ、人類に明日はないと思っている。

Q：政府は、「共謀罪」ともいわれている「テロ等準備罪」を創ろうとしているが...？

A：テロと東京五輪対策と政府は言っているが、それに惑わされてはいけないと思う。テロもあってはならないことであり、オリンピックも成功裏に無事終わって欲しいと願う人が多いと思うが、テロの原因は「テロリスト捕えてみれば自国民」といわれるほど多岐にわたっており、法律を新しく作ったから起きないというものでもない。

問題は、政府に都合の悪いことは許さないということである。基本的人権は先人たちが命を賭けて勝ちとったもので、基本的人権を政府が制限したりする恐れのある法律や社会制度は認められない。第二次大戦以前、政府の意向を先取りまたは解釈を広げた官憲に、どんなにか痛めつけられた人々がいたか、私は知っている。今回もテロや五輪という言葉に惑わされず、政府の真意を見極めたい。

### 第3章 南北朝鮮統一の好機

---

Q：北朝鮮がまたミサイルを発射したそうだが...？

A：それに対して国連はさらなる制裁を討議しているようだが、これまで何回も厳しい制裁を加えてきてほとんど効果のないことが分かっている。制裁は一部の国の手抜きで徹底されない恨みがある。アメリカも以前の様に「北朝鮮が核開発をあきらめたら話し合いのテーブルにつく」という方針を、大統領の交代を機に変えることもできる。北朝鮮の真意がどこにあるのか、話し合ってみなければわからない。北朝鮮はアメリカからどんな譲歩を引き出したいと思っているのか、それについて国際社会はどう考えるのか。まず話し合ってみることをお勧めする。これで局面は少しは動き出すと思う。

Q：北朝鮮の子供たちは今どうしているだろう...？

A：私の少年時代よりもひどい食糧難に苦しみ悩んでいるのではないかと推察している。前にも触れたが、日本はコメの消費量が減って減反政策をとっているのだから、国が買い上げて無償で提供することもできたはずだ。これは「子供たちの衣食住は大人の責任」という私の方針と一致する。朝鮮を植民地としてきた日本のお詫びにもなるはずだ。

日本は国際連盟を脱退してから戦争への道をひた走ってきたから、北朝鮮が現在の国連を脱退しないように手助けをすることには異論はあるまい。人道援助である。国連はさらなる制裁を行っても、国際赤十字等人道団体を經由する手もあろう。

Q：韓国の大統領が罷免されたが...？

A：韓国のシステムはよく分からないが、北朝鮮のトップの異母兄が殺されたと報道され、朝鮮半島は南北共に大変であろう。この際朝鮮民族は悲願の統一の実現を目指したらどうだろうか。韓国の大統領選挙が近く行われるだろうが、候補者の中にその実現を公約にする人が出ても良いのではないか。

北のトップはたくさんの政敵を殺していると聞くと、この辺で他国へ亡命しどこかの国がその橋渡しをしても良いのではないか？同一民族が引き離された状態のままの方が異常なのである。これで極東の緊張も少しは和らぐと思う。

Q：朝鮮の統一による日本への影響は？

A：まず東アジアの緊張緩和には大いに役立つと思う。歴史的に見れば、同じ民族が、当時の大国の都合により分断されればどういうことになるかはつきりしたと思う。日本は戦争には負けたが、同じ大和民族が分断されることはなかった。朝鮮の統一には心から祝意を表明したい。私の気持ちとしてはこれでようやく朝鮮を植民地としてきた罪滅ぼしができたと感じる。今後も隣国同志対等な立場でお付き合いをしたいと思う。

## 第4章 ポピュリズムとポストトランスの時代

---

Q：トランプ大統領の勝利はポピュリズムとポストトランスの時代の到来という評論があったが...？

A：これらはこれからそういう時代になるかどうかということと思う。ポピュリズムは大衆迎合主義と訳されており、大衆の気持ちをうまく先取りして選挙結果に結びつけることと感じている。移民に職を奪われたという人達を味方につけ、移民の入国を禁じる公約とするトランプ氏のやり方に大衆迎合を感じた人の説であろう。今年は、移民問題で揺れるEU諸国の中で国政選挙が行われるが、移民排斥を唱える極右の政党の台頭が問題となっている。オランダの下院選挙で極右政党が躍進したが、かろうじて与党は第1党を保ったと伝えられた。これから行われるドイツ・フランスはどうなるだろうか。

Q：極右政党の台頭がなぜ問題なのか？

A：ここでポピュリズムの登場となる。民主主義の政治制度では大衆の支持を得て、選挙に勝たなければ議員になれない。かつてヒトラーは「皆さんの暮らしが苦しいのは、第一次世界大戦後の賠償がきつからだ」と訴えて政権を得たといわれている。今の暮らしが苦しい、移民に職を奪われたからだと思えば、ふたたび現代のヒトラーを選んでしまうことになる恐れがあると危惧する向きもある。民主主義では大衆の支持を得なければ当選できないし、暮らしの苦しさに集中しすぎると、現代日本にヒトラーを登場させることになる、という危惧を真剣に言う人もいる。

Q：ポピュリズムと民主主義は似ているがどこが違うのか？

A：異論に対する対応の仕方が違う、と私は思っている。多種多様な考え方がいるのが現代社会であろう。これからは1党で政権を取るのは難しくなると思っている。多種多様な考えをもつ人たちが選ぶのだから、複数政党による連立内閣が増えると思う。違う考えの人たちが話し合っ政治を行うのだから、分断につながるヘイトスピーチは歓迎されない。民主主義は異論の存在を認め、ポピュリズムは異論の存在を許さないと、私は考えている。

Q：もう一つ。トランプ氏の勝利について、ポストトランスつまり事実よりも、たとえば間違っている、自分の持っている事実と思われることを基にした自分の感情入りの意

見でも通る、ということポストトランス（事実以後）と呼んだのだろうか？

A：トランプ氏は、事実誤認と思われるようなことを基に自分の意見とし公約として、大統領に就任したのだから、自分の感情入りの意見をこれからも政策として出すだろう。これをポストトランス時代の到来として歓迎するかどうか、はアメリカ国民の決めることだと思う。

私は事実を何回でもトランプ氏に提供し、正しい情報や知識に基づいて判断するように勧めるがどうだろうか？トヨタ自動車の社長は十分アメリカに貢献しているからといったが、そのことを何回もいろいろな方法により、しつこいくらいに情報提供しているのかどうか心配している。

なんといっても相手は超大国アメリカの大統領である。影響力は計り知れない。常に正しい情報や知識を提供する努力は続けなければならない、と思っている。事実は事実、正しい事実を基に判断することが重要であり、「ポストトランス」の時代は来ない方がよいと思っている。間違った情報を基に判断し、それにその人の感情を加えれば、人類全体の行方に影響が出ると思う。「ポピュリズムもポストトランス」も歓迎しない。

## 第5章 これからの若者の生き方

---

Q：これから若者はどう生きたら良いのか？

A：第一に、若者はこの間までの子供時代を思い出し、「子供の衣食住と基礎教育はおとなの責任」という私の持論を考えてほしい、と思う。子供は大人になるために生まれてきたのであり、おとなが責任をもって、子供たちがどこで生まれようと、おとなになる権利があることを認め、環境の整備をする。私は戦力増強のために、民生の向上を犠牲にした当時の国策に翻弄されて、育ち盛りに食べ物がないという苦勞をした。今でも食糧難に苦しむ子供たちがこの地球上にたくさんいることを、まず解決するような活動をする、解決に近づく活動をする、ことだと思っている。

その活動の中には、「少年兵の禁止」や「少年労働の禁止」も入れたいと思う。私は中学2年で戦争が終わったから80歳過ぎまで生き延びたが、子供の頃は少年兵として戦死するものと思いこんでいた。またガソリンの輸入ができないので、それに代わるものとして松の根っこからとる松根油堀りに動員された。敗戦後聞いたら「そんなもので飛行機が飛ぶわけない」と一笑に付された。

第二に、戦力増強や戦争に備えるために、民生の向上を犠牲にすることはできないということである。トランプ大統領の軍備増強予算編成では、世界一の軍事力を維持するには役立つかもしれないが、国民の生活向上には結びつかない、と思う。核兵器も含めた軍事力をいくら増強しても「アメリカを再び偉大な国へ」という目標には届かない、20世紀までの古臭いやり方である。

第三に、国際常識として定着した「基本的人権の尊重」と「人類は平等＝植民地はダメ、人種差別はダメ」に、21世紀の国際常識として「丸腰は撃たない」活動を加えたい。個人も国家も、武器を持たないものが最も尊重され尊敬される地球にすることに結びつく活動をしたい。

第四に、いろいろな情報が交錯し、その上他国の代表選挙にもサイバー攻撃があったとかなかったとか言われる時代だから、情報に惑わされず、自分の考えを日ごろからまとめておくことが日本型民主主義の確立のために大事なことと思っている。

Q：本業をしっかりとやらなければ食べてゆくことが難しい世の中で、本業以外にいろいろと考えなければならないとは大変だね？

A：しかし、日ごろから考えておけば、世の中を住みやすく生きやすくできるのが民主

主義のいいところであろう。明治維新の元勳と呼ばれる人たちは若いころ藩に属しながら、日本全体のあるべき姿を考えていたし、自分の現在属している社会よりも一段高いところのあるべき姿を常に考えておく方がよいのではないか。明治維新のころなら「廃藩置県」を先取りするような考え方であろうが、今なら自分の所属する国家のあるべき姿を考えながら、地球全体のあるべき姿を考え、生涯を通じてその方向に向かうような活動が続けることだろう。日本人として日本の今後の方向付けを考えると同時に、地球全体、人類全体の方向付けも考えるということだろう。「米国第一」「米国を再び偉大な国へ」と考える人を大統領に選んだアメリカ人は今どう考えているのだろうか？

## あとがき

---

トランプ大統領の就任以来1か月経った。就任早々大統領令を発し、混乱が発生していると報じられた。閣僚もまだ決まらず、議会の了承も得られていないと聞く。任期は4年である。まだまだ評価をする時期ではない。ただこのままだと、全閣僚が決まるまでに最初の1年かかってしまうのではないかと心配している。

この1か月の間に、このほかにもいろいろあった。そんなことを自分の体験に照らしてみ、考えてみた。今後もこのやり方で、私ならこう考えるということを発表し続けたい。私の体験に基づいた意見だから、別の考え方もあろう。異論・反論大歓迎である。それが日本における民主主義の定着に役立つことと思っている。

\*\*\*\*\*

その他の公開中の本 (mori3580)

[若者国際連合一13 ~地球第一主義](#)

[若者国際連合一12 ~宇宙時代のルール創り](#)

[若者国際連合一11 ~再び北・核ミサイルの件](#)

[若者国際連合一10 ~北朝鮮が新時代を創る？](#)

[若者国際連合一9 ~核ミサイルにどう対応するか](#)

[若者国際連合一8 ~今はただ我慢比べ](#)

[若者国際連合一6 ~とうとう大統領になっちゃった](#)

[若者国際連合一5 ~トランプ氏とどう付き合うか](#)

[若者国際連合一4 ~国民投票・その時あなたは？](#)

[若者国際連合一 3 ～若連が世界を変える](#)

[若者国際連合一 2 ～若連が動き始めた](#)

[若者国際連合](#)

[若者が目覚めた](#)

[みんな目覚めた](#)

[みんな生きる](#)

[テロをなくす](#)

[戦争は怖い！ ～東京大空襲体験者からの平和のメッセージ](#)